

1. 開会 進行：藤原生涯学習課係長
2. あいさつ 大北教育長
池田委員長
3. 委嘱状交付 机上交付
4. 委員自己紹介 各委員
5. 事務局自己紹介 各事務局
6. 報告
 - (1) 社会教育について 藤原生涯学習課係長より説明
 - (2) 三木市教育の基本方針について } 河端生涯学習課長より説明
7. 議事
 - (1) 令和5年度社会教育施策の推進について } 各課長等より趣旨説明

【質疑応答】

(池田委員長)

- ・では、「令和5年度社会教育施策の推進について」、ご質問、ご意見がある方は、発言をお願いします。

(中西委員)

- ・先日参加した人権大会の中で、中高生の大半がスマートフォンを持っており、ゲームやYouTubeのために使っていることが多く、トラブルも少なくないと聞いた。他市の事例では、色々な情報をインターネットなどで探し、学習に繋げるような使い方を子どもたちに学ばせることにより、学力の向上に寄与していると聞いた。先ほど公民館のデジタル化について説明があったが、それを活用して、子どもたちにスマートフォンの使い方を学ばせるような機会を与えることはできないか。

(梅田自由が丘公民館長)

- ・スマートフォンの活用方法については、学校においてしっかり指導しているところである。また、公民館に来る子どもたちも限られているため、今後、そのような機会があれば検討したい。

(小林委員)

- ・デジタル化によって困るのは高齢者である。デジタル化を進めるにあたって、どのような計画で、どのような負担があるのかなど、はっきりしたものを示すべきである。また、子どものスマートフォンに関する問題については、スマートフォンを子どもに持たせている親にも責任がある。

(池田委員長)

- ・今、議論すべきことは、公民館が避難所になった時に、スマートフォンやパソコンが使えず、情報を収集できなくなってしまうという課題についてである。今いただいた2つの意見については、今後考慮すべき事項として記録するものとする。

(西田委員)

- ・先日、公民館で開催されたスマートフォンの勉強会に参加したが、難しい単語ばかりで、高齢者には少し分かりにくい内容であった。ただ、分からないままであると、災害の時に困ってしまうため、定期的にスマートフォンの使い方などの勉強会があればよいと感じた。

(長谷川委員)

- ・公民館でのWi-Fi環境の整備は必要だと考えている。公民館のWi-Fi環境が整備されれば、インターネットで容易に情報を収集することができるようになる。また、小学校・中学校の児童生徒は1人1台タブレットを持っており、学校教育の中で情報収集やタブレットの活用方法について学んでいるため、避難所などで高齢者に情報が行き届かないのであれば、子どもたちが高齢者に情報を伝えることもできるのではないかと。

(岸本副委員長)

- ・先ほど、細川町公民館だけWi-Fi環境があると聞いたが、すべての公民館に導入しないのか。予算措置はどうなっているのか。

(河端生涯学習課長)

- ・細川町公民館は、地域における取組を推進するため、まちづくり協議会が先行してWi-Fi環境を整備した。Wi-Fi整備に係る予算要求はしているが、今のところ措置されていない状況である。

(池田委員長)

- ・公民館にWi-Fi環境が整備されることによる一番のメリットは、パソコンが使えるようになり、インターネットを通じて様々な情報を集めることができるということだと思う。

(河端生涯学習課長)

- ・コロナ禍において、公民館の活動が滞ってしまったことで、デジタル化の重要性や利便性が認識されたところである。しかしながら、公民館はコミュニティの場であり、人が来なくなってしまうことで、趣旨が変わってしまう恐れもある。

(西田委員)

- ・話題を変えたいと考える。生涯学習課の重点施策にある「地域の未来を担う人づくりと地域課題の解決に向けた支援」について、現在、老人クラブの運営が厳しくなっている。今年度に入り、細川地域の老人クラブが休会となった。市全体の老人クラブの会員数も昨年度と比べて500人くらい減っている。PTAも自治会でもそうだが、老人クラブでも役員になる方が

いない。そこで、人づくりや組織づくりなど、このような課題に対する支援をしっかりと考えていかなければならない時期に来ていると感じた。

(國井委員)

- ・別所まちづくり協議会では、文化祭や納涼大会に別所中学校の生徒会の生徒が参画している。それによって地域への愛着が湧くのではないかと考えている。

(米田委員)

- ・市内でもPTAがなくなるのではないかと、また、なくそうとしている動きもある。都心部ではPTAがなくなったところがあり、三木市にも波及しているのではないかと思う。積極的な保護者が多い学校では、上手にまとまることもあるが、本部役員になると、充て職で市の会議の委員に委嘱されることが多くなっており、それが役員の負担となっている。例えば、青少年補導委員については、自分の子どもを家に置いてまで参加しなければならないのかという声を多くの方から聞いている。市全体として、充て職を減らす方向で検討してほしい。

(計倉教育センター所長)

- ・PTAのあり方が変わっている中で、青少年補導委員の活動回数は大変多い状況である。現在青少年補導委員の会長と今後の活動のあり方について協議しているところであるため、今後、何らかの形で方向性を出せればと考えている。

(米田委員)

- ・白いポストが市内の各駅に設置されている。神戸新聞には、他市において廃止しているところがあると書いてあったが、三木市は継続するとあった。有害図書やDVDが減っている中で、本当に必要なのか。どうしても必要ならば、公民館に設置してはどうか。

(小林委員)

- ・地域の一番の課題は人づくりだと思う。次の世代の方で、誰が先頭に立って地域を引っ張り、事業を継承していくのか。先日、区長協議会の視察研修で京丹後市に行った。そこには、移住者を集める専門の職員がおり、まちづくりの課題解決についても共に考えてくれる人材が配置されていた。

(杉原委員)

- ・吉川町で開催する夏まつりや文化祭では、中学生や高校生が参画している。「未来を担う人づくり」ということだが、やはり若い人の参画が重要となってくる。白いポストについても、吉川町では公民館に設置されているが、神戸新聞を読む限りでは、私も不要であると思った。また、充て職についても、役員の負担になっていると聞いているため、再検討をお願いする。

(中西委員)

- ・PTAについて、役員に立候補する方の大半が、その後本部役員になることを免除されるために立候補している方が多い。また、自分の子どももいる中で、時間を割いて活動するのは本当に大変だと思う。役員選びやPTA活動について、見直しが必要な時期だと思う。

(國井委員)

- ・人の目の垣根隊について、年に1回くらい意見交換会をされていると思うが、交通指導員も参加した方が良くと思うが、如何なものか。

(計倉教育センター所長)

- ・交通指導員については、生活環境課であるため、一度確認させていただく。

(2) コミュニティ・スクールについて

} 河賀小中一貫教育推進室主査より説明

(米田委員)

- ・コミュニティ・スクールという言葉は聞いたことがあるが、今後予定していることはあるのか。あまり内容が見えてこない。

(河賀小中一貫教育推進室主査)

- ・これまで、学校運営協議会を2回開催し、第1回は現状把握をするとともに、どのような子どもを育てていくのかについて議論を交わした。第2回は今後どのような活動をしていくのかについて計画をしているところである。例えば、地域の方々のご協力により、一緒に学校の花壇に花を植えるような活動を計画されている。

(西田委員)

- ・これは、中学校単位のものなのか。また、学校評価であれば、現在の評議員がしていると思うが、学校運営協議会でも学校評価をするのか。

(長谷川委員)

- ・三木市では、先行的に緑が丘中学校と吉川小・中学校にコミュニティ・スクールを導入した。吉川小・中学校では、小学校の評議員と中学校の評議員に加え、まちづくり協議会やPTAの代表者が運営委員となっており、学校評価もしていただくこととなっている。また、学校運営協議会は、地域で未来の人材を育てていこうという想いで運営している。さらに、地域の方にコミュニティ・スクールのことを知っていただくため、コミスク通信を全戸配布する予定としている。

(佐藤委員)

- ・コミュニティ・スクールは、学校教育の範囲である。学校をどうすればよいのかといったときに、学校だけに任せず、地域も関わってくださというのが趣旨であったと思う。皆さん、自分の生活だけで精一杯の中で、ハードルだけ高くしても仕方がないため、できることから始めていけばよいと思う。

(黒田委員)

- ・コミュニティ・スクールの活動はすごいことだと思う。地域の皆さんが学校に行って、子どもたちと関われることはとても嬉しい。

(細久保委員)

- ・三木市は、将来的に5つの小中一貫校を設置すると聞いた。人口が減少していく中で、社会教育関係団体をはじめ、組織や人も統合していくべきではないか。

(兼貞委員)

- ・新興住宅地は、人と人との繋がりが希薄になっている。私の主人は、仕事で忙しくてもPTAの役員になり、子どものために汗を流していた。今は、人との接触をできるだけ避けようとし

ている風潮があるように見える。また、子育てをする以上は、他人任せではなくて、親が責任をもって育てていくというのが大切だと思う。

(大北教育長)

- ・先ほど、市内に5つの小中一貫校を設置するといった発言があったが、当初はそのような計画で教育委員会が発表していた。吉川地域に最初の小中一貫校を設置しようとしているが、そうならば、あと4つの小中一貫校を設置するという考え方になる。しかしながら、社会情勢の変容や各地域の実態の変化、そして何よりも児童生徒数の推移を見極めたうえで進めていくため、5つという考え方は白紙に戻し、今後、検討、決定していく。

(池田委員長)

- ・色々のご意見を出していただき感謝する。以上で議事については終了する。それでは、進行を事務局にもどす。

8. その他

東・北播磨地区、県・近畿・全国社会教育委員協議会関係予定 } 藤原生涯学習課係長より説明

9. 閉会

あいさつ 岸本副委員長

～午前 11 時 45 分終了～

記録者 生涯学習課係長 藤原正和